

じんげん ア ジ ー ル asile

秋冬号
2016
大谷大学広報誌

ここで学んだことを地域のために生かしていく
そのためにコミュ・ラボはあり続ける

地域と接して、地域を知る コミュニティを考えるラボトリー コミュ・ラボの魅力

地域とつながる、活動拠点として出来たコミュ・ラボ。

大学を飛び出して、見て、聞いて、触って…。

地域の暮らしを知り、魅力を考え、課題を解決する。

コミュ・ラボで、地域のおもしろい出会い、さまざまなアクションをしている学生二人と共に語り合いました。

コミュニティとコミュニケーションを大切にしたいラボトリー

志藤 まずお二人がコミュ・ラボのプロジェクトに参加しようと思ったきっかけや理由をお聞かせください。

駒井 僕は先輩に、「ここに入ったから、キレイなホテル見れるよ」と誘われて、北区の中川学区という地域の集落に行ったのがきっかけです。

志藤 そうでしたかね。当時、中川のプロジェクトは、「ホテルを見に行こう」を口説き文句にして始めました。授業ではなく、任意という形で他学科の学生にも参加してもらいました。地域の人々と、触れ合うきっかけづくりをしましたかね。具体的にはどんな活動をしましたか？

駒井 定期的にその集落の掃除や、調査を行って、地域の現状を知るということをしました。

志藤 中川という地域では、過疎化や少子化が進んでいます。そこで何ができるのか、地元の人と一緒に考えていきたい。手探り状態のスタートでしたが、掃除をきっかけに地域の方との交流が生まれ、地域政策としての活動が始まりましたね。

駒井 そうですね。今年になりメンバーも増え、月1回のサロンを設けています。中川の人との交流をメインに三味線演奏会や、クイズ大会、流しそうめんをしました。

志藤 前期のサロンは終わりましたが、今後も学生主体で、実践と検証を重ねていきましょう。では、川北

さんはいかがですか？

川北 私は「お茶摘みに来ない？」と誘われて中川に行ったのがきっかけです。

志藤 そうでしたかね。野生の鹿が茶葉を食べてしまうので、大学でお茶の苗木を育ててみようとなったんですね。その後、中川に戻し、育った茶葉を使って、何かできないかというプロジェクトです。摘んだお茶の味はいかがでしたか？

川北 昔の手作業の工程を2日間かけて実践して、できたてを飲みました。本当においしくて、これからは大事に飲もうと思いました。

志藤 それは本当によかった。実体験から何かを得ることが実はとても大切なことなんです。ただ、教室で知識として学ぶのではなく、地域の人とコミュニケーションを取りながら、コミュニティを学ぶ。そんなことを繰り返すうちに地域に愛着が湧く。そんな拠点になる場所がコミュ・ラボです。では、中川以外のプロジェクトはいかがですか？

ごみゼロとラジオという活動

駒井 祇園祭ごみゼロ大作戦という活動に参加しました。音楽イベントや大きなお祭りや、リユース食器を屋台などに配り、ごみを最初から出さない仕組み作りをすすめるecofone（エコトーン）というNPO団体の呼びかけを学内でやってもらったので参加しました。ボランティア同士



社会学科第1学年 / 川北 楓子



社会学科第2学年 / 駒井 潤輝



地域連携室 室長 社会学科 教授 / 志藤 修史



がフレンドリーに交流もでき、輪も広がる魅力的な活動だと思っています。

川北 ボランティアは、人の力になれるし、自分の勉強にもなるところが、良いところだと思います。

志藤 この活動は、社会科学に限らず全学科から参加できます。学年や学科を問わず、地域とつながる、こういったプロジェクトをコミュ・ラボでは支援しています。あとはラジオもしてるよね。

駒井 北区の大学が集まって、北区の魅力などを、地域コミュニティラジオ局（愛称：RADIO・MIYAYOTO FM87.0）で発信しています。1000KITAスタジオと大垣書店本店にあるスタジオでやっています。赤澤先生のゼミで、大谷大学の番組を作り、北区の現状レポートや、活動している人を紹介しています。

コミュ・ラボのこれから

川北 コミュ・ラボの今後は、どうお考えですか？

志藤 まず一つ目は、この烏丸北大路周辺の人や街、商店など、地域の人たちとつながっていく仕組みをどんどん広げていきたいですね。

駒井 次は、街中（市街地）ですね。川川でやってきたような山中（山間地域）とは違うアプローチが必要ですね。

志藤 その通り。赤澤先生には、ラジオで情報発信の仕掛け作りを担っ

ていただきます。私は、福祉のまちづくりといった部分で、住民が考えるまちの計画作りを手伝っていく。そういう二本柱で続けていきたいです。

川北 福祉のまちづくりはとても興味があります。

志藤 もう一つは、山中プロジェクト。「活性化とは？」ということを考えていきたいと思います。若い世代や子どもたちが溢れている状況は、すでに減少傾向にあります。成熟した社会のなかで、生活、暮らしなどはここに住む、住まないは別として、その地域のことを考える人たちが増える社会ができればいいですね。生業（仕事）と福祉、この二つを踏まえながら、街中、山中のプロジェクトを継続していきたいです。では、最後に二人から未来の後輩に向けてメッセージをどうぞ。

駒井 コミュ・ラボの活動を通じて、福祉関係や地域政策を学ぶことができ、多角的な視野を持つことができると思います。汗をかいて学びたい方、一緒にホテルを見に行きましょう。（笑）

川北 積極的に参加することの大切さを学びました。活動を始めたばかりですが、とても楽しかった。もっとみんなが参加すると、さらに楽しくなると思います。是非、ご参加ください。

慶 聞 館

KYOMONKAN

多様な教育空間を実現する
新しいキャンパスへ。
新教室棟（慶聞館）
2016年9月より、中央・
南エリア利用開始されました！

■ キャンパス整備の理念

自ら創る「学び」のかたち
— 伝統を、社会に開き、
未来へつなぐ —

本学は、教育・研究力の一層の充実を図り、学生が主体的に学ぶことができる新しい環境づくりをめざして、2018年完成を目前に、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備に着手しました。これは、2014年に築53年となった既存の研究室棟（聞思館）・事務室棟（至誠館）や2015年に築50年となった教室棟（1号館旧館部分）等の建て替えという、長期整備計画に基づく取り組みではありますが、本学の伝統を踏まえつつ、未来を見据えた新たな本学を創造する事業として計画を進めています。

新しい本学については、すでに2011年に、その構想を表した「大谷大学ランドデザイン」が発表されています。

そこでは、初代学長清沢満之と第3代学長佐々木月樵によって示された建学の理念をもとに、大谷大学を「仏教を基盤として、人間の真の立脚地を問う」大学である

と確認しています。そのうえで、教育のビジョンを「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を養成する」ものとして示しています。

この度の新教室棟建設およびキャンパス総合整備計画は、長期的な大学運営構想に立った計画であり、6つのコンセプトで計画を進めています。

6つのCONCEPT

■ CONCEPT 1

ランドデザインに基づく新教室棟ならびにキャンパス整備

■ CONCEPT 2

教養教育の充実と基本的読み書き能力の強化に向けた計画

■ CONCEPT 3

学生ロビーを中心に多様な教育空間を実現し主体的な学びをサポート

■ CONCEPT 4

ユニバーサルデザインや環境に配慮したキャンパス整備

■ CONCEPT 5

「尋源館（旧本館）」をシンボルとしたキャンパス整備

■ CONCEPT 6

新教室棟の早期利用開始を前提とした整備計画

学生からのコメント

**中央執行委員会 委員長
中田創さん（仏教学科第3学年）**

8月1日（月）に内覧会が行われ、一足先に新しい校舎に足を踏み入れさせていただきました。

慶聞館は、僕たち学生に新しい学びへの刺激を与えてくれると感じました。廊下から授業風景が見える教室のガラスの壁や、グループワークやミーティングも行うことができるマルチスペースなど、学生同士が互いの学びを高めあえるような仕掛けが多くありました。特に強く印象に残ったのは、サブゼミスペースの一部に発表風景を見学できる場所があることです。同じ大谷大学生でありながら今まで関われなかった他学科の学生の活動風景を見ることがとても楽しみです。



大谷大学新聞社

8月6日（土）・7日（日）のオープンキャンパスでは、慶聞館の利用開始前ではありましたが、模擬授業などを、一部の教室を利用して開催しました。その取材のため、教室に入った大谷大学新聞社所属の岡崎藍さん（社会学科第2学年）、工藤有加さん（歴史学科第3学年）にインタビューを行いました。

「まず、第一印象として、とても新鮮に感じました。教室がほとんどガラス張りです。外から中の様子が見えるので、学生同士が互いに刺激を受けて、学びの意欲につながるのではないかと思います。2階に上がる階段の段差が低いので、とても上りやすく、設計上でいろいろと配慮されているなど感じました」と語っていただきました。



**慶聞館1階 学生ロビー設置！
愛称募集！！**

慶聞館中央エリア1階には、本学でのさまざまな学びのコアとなるべく、広大な「学生ロビー」が設置されます。

慶聞館は、この「学生ロビー」を中心として有機的に学生の学びや活動をサポートできるように計画しています。

今般、学生ロビーの愛称を左記のとおり募集しますので、積極的に応募してください。

(1) 募集期間

2016年9月19日（月）
2016年10月18日（火）

(2) 応募対象

本学在学学生および本学卒業生

(3) 応募方法

本学ホームページ「キャンパス総合整備計画」に設置している専用フォーム（9/19に公開）でご応募ください。

(4) 名称発表

学園祭前夜祭

(5) 選考

学長が厳正に選考し、決定します。

(6) 表彰

学園祭前夜祭において記念品の贈呈と表彰をおこないます。

詳細については、

大学ホームページまたはQRコードよりアクセスしてください。



9月19日（月）、講堂棟地階「学内食堂」がリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルは、キャンパス総合整備計画の一環として、学生・教職員の満足度をより一層高める目的で実現されたものです。新メニューも多数ラインアップされています。また、同窓会うどん（70円）は継続的に販売されますが、1日100食限定となります。ぜひご利用ください！！



学部紹介

「社会学部」・「教育学部」を
2018年4月に開設予定

本学では2018年4月の開設をめざし、新学部の設置に向けた準備を進めています。その内容は、現在の「文学部」に「社会学部」と「教育学部」の2学部を加え、3学部体制を取り、本学の学びを一層強化し推進したいと考えています。

「社会学部」は、文学部社会学科および人文情報学科を発展的に改組し、新たにコミュニケーション学科、現代社会学科の2学科を設置、「教育学部」は、文学部教育・心理学科を発展的に改組し、小学校・特別支援学校教諭コースと幼稚園教諭・保育士コースの2コースを配した教育学科を開設することを構想しています。

また、短期大学部仏教科については、全学的な改組構想の一環として2018年度からの募集を停止し、その教育理念や教育手法を文学部へ発展的に統合させることを予定しています。

新しい大谷大学の誕生と共に、それぞれの学びをさらに充実したものにしていきます。

文学部1学部体制から3学部体制へ



宗教や思想、歴史や文化など、人類の所産を学ぶことによってあるべき人間像・社会像を追求する人に。自分の中に、未来を切り開く〈可能性〉を発見します。

人や地域をつなげ、ともに生きる社会の創造をめざす人へ。社会へ飛び出し、日常のさまざまな事柄や地域をテーマに実践的な学びを行います。

子ども一人ひとりと向き合い、ともに成長しつづける先生へ。教員・保護者としての専門性はもちろん、心構えや実践力も養います。

(2018年4月新設予定 設置構想中)

(2018年4月新設予定 設置構想中)

※ 設置される学部・学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

※ 設置される学部・学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

社会学部

コミュニケーションデザイン学科

■ 地域政策学コース／社会福祉学コース
地域におけるさまざまな課題に向きあい、まちづくりや相談・援助などの実践的な手法を学びながら解決の方向を見出していきます。

《学びの特色》
○ 大学を出て、地域を訪れ、課題を探る、現場主義の学び
○ 演習（ゼミ）を中心とする、プロジェクト型学習
○ 人と会う、聞く、話す、実践力が身につく4年間

現代社会学科

■ 公共社会／人間関係／現代文化
学生の興味・関心のある、あらゆることが学びの対象です。自由なテーマ設定のもと、社会学の専門的なものの見方や考え方、調査・分析方法を学んでいきます。

《学びの特色》

- 幅広いテーマを、自由かつ柔軟に探究する学び
- 演習（ゼミ）や、プロジェクト型研究などのアクティブ・ラーニング
- 現代社会に求められる、調査・分析力が身につく4年間

教育学部

教育学科

■ 小学校・特別支援学校教諭コース
教育学、心理学、教科教育学といった教育に関する領域について、初等教育と特別支援教育という2つの観点から学んでいきます。

《学びの特色》

- 授業力・指導力を育てる少人数制教育
- スクールマネジメント能力の向上
- 宗教的情操と子ども理解力の育成
- 地域と連携し、社会のニーズに対応

■ 幼稚園教諭・保育士コース

乳幼児の世界をとらえ深く関わるために、幼児教育と保育および子どもの福祉に関する理論と実践を総合的に学んでいきます。

《学びの特色》

- 早期から保育現場と連携した学びを展開
- 表現力と総合的なプロデュース力を育成
- 「こころ」に関する高度な専門性を養成
- 多様な職場で活躍できる保育者をめざす

※ 設置される学部・学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

2016年7月15日(金)・16日(土)

祇園祭ごみゼロ大作戦2016に本学の学生らが参加

7月15日(金)・16日(土)、祇園祭・前祭の宵々山、宵山にて実施された『祇園祭ごみゼロ大作戦2016』に大谷大学として参加しました。

この活動は、宵山で立ち並ぶ夜店や屋台の使い捨て食器のごみの削減をめざし、2014年からくりかえし使用できるリユース食器を導入しています。

今年度の本学からの参加者は、在学生115人、教職員等18人の計133人。うち、学生11人は、ボランティアリーダーとして参加し、ボランティア説明会、告知広報など当日までの準備や、当日参加のボランティアのマネジメントに取組みました。

当日は、拠点となるエコステーションにて、リユース食器の回収やごみの分別の呼びかけ等に取組みまし



た。週末と好天が重なり、昨年度を上回る来場者があるなか、本学参加者を含む2300人にもおよぶボランティアが、暑さに負けず活動に励みました。活動中には、京都市長からの激励の挨拶や、来場者から「ありがとう」「ご苦労さま」など、感謝やねぎらいの言葉を頂く機会もあったほか、積極的に分別に協力してくださる方も大勢いらっしゃるなど、「祇園祭のごみをゼロに」という目標に向けて、ボランティア、来場者の一体感も感じられました。

ボランティアとして参加した学生らは、「一人ができることは限られていても、これだけ多くの人が集まり活動することで『ごみゼロ』という大きな目標を達成していくチカラになることを実感できました」と振り返っています。



2016年8月26日(金)～29日(月)

大谷大学TAT第20便、熊本県南阿蘇村などでボランティア活動を実施

8月26日(金)～29日(月)にかけて、東日本大震災復興支援ボランティア「大谷大学TAT (Tomoni Ayumi Tai/Transcending All Together)」第20便は、平成28年熊本地震被災地である南阿蘇村や益城町などにおいて、被災住居・周辺の清掃作業、陶器配布やかき氷の提供、地元の子どもたちとの触れ合いなどのボランティア活動を実施しました。

今回初めての活動場所となる熊本県でたくさんの方々のご協力をいただき、無事活動を終えることができました。

参加した学生は、「1日目は被災した家屋から家具等運び出す作業と、地域の神社での草取り作業でしたが、一番強く印象を受けたのは、家具を運び出す活動でした。地震の揺れによって激しくひしゃげた倒壊寸前の家屋や完全に倒壊した家屋が、ほぼ震災当時のまま多く残されてい



て、住人の方々の生活が激変した様子も窺えました。解体が決定した我が家から次々と家具や愛用品が運び出されるのをじっと見つめる住人の方の寂寥感や哀しみの傷嘆に、作業をしながら思いを巡らせてしまうことがありました」と語ってくれました。また、他の学生は、「仮設住宅に住む方と会話させてもらったことが一番印象に残りました。活動をするなかで、当時の状況やガラスの割れる音がどんなものなのかを詳しく教えてくださる方もおられました。それは『地震』という言葉では表せないほど悲惨なもので、直接話を聴くまでわからないことでした。今回の活動をとおして、本当のことを知るには自分自身が行動しなければなりません。人と人とのつながりは『会話』から生まれることを改めて気づくことができました」と語ってくれました。



Event report

2016年4月18日(月)

文藝塾特別講義

「リリー・フランキー先生の文藝(じんせい)相談」を開催

4月18日(月)、メディアホールを会場に、文藝塾の特別講義「リリー・フランキー先生の文藝(じんせい)相談」を開催しました。

今回、講師としてお越しいただいたリリー・フランキー氏は、俳優業のほか、イラストレーターや作曲家、絵本作家、演出家そして小説家としても活躍されており、長編小説『東京タワーーオカンとボクと、時々、オトン』は200万部を超えるベストセラーとなっています。

今回の特別講義は、文藝塾講義、文藝塾演習の受講者約50名をはじめ、文藝に関心のある学生を対象に開講され、事前に学生から寄せられた創作や人生の悩み相談に、リリー氏が応答していく形式で進められました。

「小説っぽくしようとする」と書けない」「プロットは書かない」「一行目が重要」「句読点や改行はリズム感が大事」「自分の言葉で」とにかく文章は最後まで書ききる」といった創作上の具体的な指摘が随所になされ、爆笑のなかにも自らの姿勢を省みる得難い機会となりました。時間を超過したことに気づかないほど受講者はリリー氏の話に魅了されていました。



2016年4月27日(水)

大谷大学真宗総合研究所東京分室開所式を挙

4月27日(水)11時から、真宗大谷派(東本願寺)の親鸞仏教センターに移転開所式と合同で、本学真宗総合研究所東京分室開所式が挙行されました。

東京分室は、本学が社会に対して責任を有する研究分野において、若手研究者に研究機会と環境を提供するという目的で開所されました。

開所式には木越康学長、寺西龍水学監・事務局長、松川節研究・国際交流担当副学長、松浦典弘真宗総合研究所主事、滝川義弘教育研究支援部事務部長が参列し、木越学長からは「首都圏で研究を進めるにあたっては、分室の席に座っているのではなく、外に出て他分野の研究者との交流を重ねてほしい。視野を広げ研究を深め、その内容を社会に開示していく若手研究者の育成が、この東京分室への願い、研究員への激励の言葉がありました。」

新しい分室には3名の研究員が所属しており、今後の研究推進が期待されています。



CLUB INFORMATION

2016年度 春季大会結果

卓球部

●平成28年度 関西学生春季リーグ戦
男子 4部Cブロック4位
女子 4部Bブロック4位

柔道部

●第67回 京都学生柔道大会
2部5位

硬式野球部

●平成28年度 京滋大学野球連盟春季リーグ戦
I部6位

〔5リーグ選抜選出メンバー〕

小川航平 (捕手 社会学科 第2学年)
土平厚樹 (二塁手 仏教学科 第4学年)
大久保智貴 (三塁手 社会学科 第4学年)
〔ベストナイン〕
大久保智貴 (三塁手 社会学科 第4学年)

●平成28年度 京滋大学野球連盟春季リーグ戦
春季リーグ戦I・II部入替戦
I部6位

ソフトテニス部

●平成28年度 関西学生ソフトテニス春季リーグ戦
男子 6部2位
女子 8部1位(7部昇格)

バレーボール部

●平成28年度 関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦
6部Bブロック5位

バドミントン部

●平成28年度 京都学生バドミントン連盟春季リーグ戦
男子 京都リーグ2部昇格

●平成28年度 関西学生バドミントン連盟春季リーグ戦
男子 6部Bブロック2位
女子 5部Aブロック1位

※入賞者の学年は、大会時のものです。

2016年5月14日(土)、22日(日)

大津市主催子育て支援オペレッタに 幼児教育保育科学生が出演

5月14日(土)および22日(日)、大津市にて幼児教育保育科第2学年全員による親子向け子育て支援オペレッタが開催されました。この公演は、大津市と本学が地域の子育て支援事業として行なっているイベントです。子ども向けのオペレッタ(小さな音楽劇)をとおり、生の音楽や踊りに親子で触れ一緒に楽しむことで、子育てをする心のあり方や子どもとの関わり方を考えていくことを目的としています。今年度は、瀬田公民館で「みにくいアヒルのこ」「マーシヤとくまさん」、仰木の里市民センターで「ねむり姫」「さるかにがっせん」の公演を行いました。



この公演に参加した学生は、「子どもたち、保護者の方々が喜んで観てくださっていて、嬉しかったです。今回の公演で、子どもたちのために努力することの素晴らしさを感じることが出来ました」「今までやってきたことを精一杯、何より一生懸命観てくれる子どもたちに届けたいという思いで演じました。子どもたちの真剣な表情や、『面白かった』『もう1回観たい』という声を聞き、皆で頑張った本当に良かったと感動しました」と語ってくれました。



2016年6月3日(金)
食育イベント 料理教室を開催
6月3日(金)、2号館小児保健実習室、栄養実習室において食育講座と料理教室「和食の基本講座」～美味しいご飯の炊き方とだしの取り方を学ぼう! 『茶わん蒸し』も作ります!』を開催しました。24名の参加者は、豚肉の生姜焼き、茶碗蒸し、ご飯、大根とわかめの味噌汁を作りました。
食育講座では、学内食堂典座の管理栄養士の小野さんから日本人の伝統的な食文化・和食の特徴について講義を受け、昆布だし、昆布と鰹の合わせだしの味を比べて、その相乗効果についても学びました。また、料理教室では、典座の加藤店長より和食の基本である米のとぎ方、だしの取り方から教わりました。
参加者は「合わせだしがとっても美味だった。皆と作るの楽しい」と大満足でした。



敬弔

特別任用教授 飯田剛史殿(66歳)におかれましては、2016年8月20日(土)午前6時21分にご逝去されました。ここに心から哀悼の意を表すとともに謹んでお知らせ申し上げます。

※キャンパスピクスの学年表記については、2016年度のものです。

PERSONNEL INFORMATION

依願退職

〔任期制助教〕
種子田 香 2016年3月31日付
佐々木 拓 2016年8月31日付
〔事務系嘱託〕

林 里紗 2016年5月13日付
〔教育研究支援部〕
小熊 健一 2016年6月30日付
舟崎 仁美 2016年7月31日付
〔総務部〕

小寺 祥世 2016年8月31日付(各通)
山田 まりえ 2016年9月1日付(各通)
太田 美紀子 2016年9月30日付
(企画・入試部)

〔事務系嘱託〕
天山 信楽 (教育研究支援部)

〔新採用 任期制助教〕
池末 陽子 2016年9月1日付

清水 あゆみ (教育研究支援部)
2016年9月1日付(各通)

〔真宗総合研究所東京分室長〕
池上 哲司 2016年4月1日付

〔PD研究員(真宗総合研究所東京分室)〕
田崎 郁子
藤原 智
松澤 裕樹 2016年4月1日付(各通)

〔PD学芸員〕
門井 慶介 2016年5月1日付

Event report

2016年7月11日(月)
親鸞エッセイコンテスト
出張講義を実施

7月11日(月)、真宗大谷派関係学校である高松学園伊那西高等学校において「親鸞エッセイコンテスト」の出張講義を実施しました。

コンテストの趣旨は「人間ってなんだろう?」をテーマに「人間っていいな」「人間って不思議だ」「人間ってわからない」と思った出来事や、自分を変えてくれた言葉、心に残った体験などを、今のかけがえのない気持ちを、エッセイとして表現していただくというものです。

今回の1年生を対象とした出張講義では、哲学科の村山保史教授が「不思議な人間」についてお話されました。高校生は、熱心に村山先生の話に耳を傾けていました。

本コンテストの詳細は大学ホームページでも紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

大谷大学 親鸞エッセイコンテスト

「人間ってなんだろう?」

- 応募対象：中・高校生
 - 応募方法：専用原稿用紙に記載の上、送付
 - 応募期間：2016年7月15日(金)～10月7日(金)必着
 - 表彰：各部門から最優秀賞 1名
 - 賞状・副賞(図書カード3万円分を贈呈)
 - 各部門から優秀賞 2、3名
 - 賞状・副賞(図書カード1万円分を贈呈)
 - 奨励賞 若干名
 - 賞状・副賞(図書カードを贈呈)
 - 受賞発表：受賞作品は、11月11日(金)に大谷大学ホームページにて公表・掲載(奨励賞は氏名のみ)します。
- ◎送付先などの詳細は、大学ホームページをご覧ください

2016年8月3日(水)
京都両洋高等学校と本学バスケットボール部による練習試合を実施

8月3日(水)、大谷大学の体育館2階アリーナにおいて、高大連携協定校である京都両洋高等学校と本学のバスケットボール部による練習試合を実施しました。熱のこもった会場では、両チームから生まれる声援や足音、ボールが地面をたたく音など、さまざまな音であふれかえっていました。大学生、高校生という枠組みにとらわれることなく、それぞれが1プレイヤーとして激しい攻防を繰り返し、白熱した試合となりました。

試合後、京都両洋高校バスケットボール部の監督から「たいへんいい刺激になった、感謝している。またよければ試合をお願いしたい」というお言葉をいただきました。

練習試合の詳細については、大学ホームページの高大連携ページをご確認ください。



2016年8月6日(土)
おおたにキッズキャンパス「夏休みスマイルスクール」を開催

8月6日(土)、教育・心理学科の岩淵信明ゼミ・市川郁子ゼミ・小川健一ゼミ・井川利尾ゼミ・田中潤一ゼミ(第3、4学年)と第1、2学年有志の計64名が企画した「おおたにキッズキャンパス」が開催され、地域の園児から小学6年生の子どもたち約120名とその保護者の方々に参加いただきました。

今回のおおたにキッズキャンパスは、「夏休みスマイルスクール」と題して、「紙コップけん玉作り」「紙トンボ作り」「紙粘土マグネット作り」「キャブタネット作り」「光電池カーを走らせよう」「演奏会と楽器体験」「クイズに答えてヨーヨー

ーゲット」「迷路などのプレイランド」「ブロックあそびなどのキッズランド」など、さまざまな学習体験ができる「学びの宝箱DAY」として企画しており、会場となった4、5号館は終日お祭りのような賑いを見せました。

参加いただいた保護者の方からは、「自転車で行ける範囲で子どもと一緒に一日勉強できたり作ったりできてよかったです」「どの部屋でも学生さんたちがやさしく話しかけてくださって娘もうれしかったようです」「夏に建物内で遊んだりできるこういう場所があります」などの感想をいただきました。



紫明祭2016

多くの笑顔や思い出が生まれる紫明祭。今年も最高の思い出をつくろう!

今年のテーマは

谷大魂、止まらない

今年もこの季節がまもなくやってきます。11月11日(金)より3日間行われる、大谷大学が笑顔と活気であふれる学園祭、紫明祭です。

大谷大学の皆様に楽しんでいただけるよう、私たち学園祭実行委員一同、日々準備を進めています。

2016年度の紫明祭のテーマは「谷大魂、止まらない」です。大谷大学生からの募集と投票により決定させていただきました。

大谷大学ではたくさんの学生が勉学に励みながら部活動・サークルなどさまざまな分野で仲間と共に活動しています。ひたむきに頑張っている皆様にとって、紫明祭が仲間たちとの大切な思い出になるよう、一生懸命準備を進めています。そして、一般の人も含めた紫明祭に関わる全ての人が魂をひとつにして、盛り上げられるよう頑張っていきます。

そして、プレイベントでは、紫明祭が近づくにつれて高まってきた盛り上がりを楽しんでいただきたいと思っています。準備をするなかで仲間と協力し、成長していく姿を感じ取っていただきたいと思っています。

プレイベントやプロタレントイ



学園祭実行委員会委員長
教育・心理学科 第3学年
赤澤 政成

ベント等の詳細については、大谷大学学園祭実行委員会公式ホームページやTwitterにてご確認ください。
ぜひ、紫明祭で最高の思い出をつくりにきてください。

EVENT SCHEDULE

イベントスケジュール

大谷大学学園祭実行委員会公式ホームページ
<http://shimeisai.com/>

Twitter アカウント @shimeisai

11/11 金

時間
16:30
▼
19:30

前夜祭

「さぁ みんな立ち上がれ! 谷大魂ここにあり。」
紫明祭を盛り上げるための前哨戦として、ジャンケン大会、ビンゴ大会等を企画。

11/12 土

時間
15:30
▼
18:30

音楽イベント

「谷フェス~心に響く音楽を~」
学内団体による音楽パフォーマンスを披露。

11/13 日

時間
13:30
▼
16:15

プロタレントイベント

出演者は誰か?! 詳細は大谷大学学園祭実行委員会公式ホームページ、Twitterをご確認ください。

※ 時間は予定のため、多少前後する場合があります。

時間
17:30
▼
19:30

後夜祭

「進め、大谷POWER!」
2016年度紫明祭の幕引きとして、展示・模擬店の表彰や思い出ビデオ・エンドロール上映を予定。



ライフ Life

ENJOY!



アフタースクールをもっと楽しもう!

今回は『無化調』にこだわる人気のラーメン店「つるかめ」をご紹介します。ぜひお友達と誘い合って出かけてみてね!

あのラーメン激戦区一乗寺にもある 人気店「つるかめ」が北大路にもついにOPEN!



つるかめのこだわりと、 北大路店ならではの店長のこだわり

つるかめは、全く化学調味料を使わない『無化調』にこだわっています。スープは、豚骨、鶏がら、魚介など厳選した食材をたっぷりを使い、同じ作り方をしているても作り手によって味が変わってくるそうです。また、自家製麺の中太平打ち麺は北大路店限定で、濃厚なスープによく絡み、とても美味しいです。おすすめのメニューは、魚介醤油らぁめん (720円)、旨辛らぁめん (880円)。盛りつけも他店と違うため、一味違う「つるかめ」を味わうことができますはず。



オシャレなインテリアと内装にびっくり!!

1階はつるかめのイメージカラーの赤色の壁紙に、オシャレなカウンター席のニューヨークスタイルです。2階は1階のイメージとはがらりと変わり、白色の壁紙、床はフローリングで北欧を思わせるような内装です。インテリアもオシャレでカフェのようなので、女性も行きやすいです。



きたきたー!
美味しそう!!



2階はテーブル席。
グループでも食べられるよ!





私たちは、教育・心理学科の2年生です。
同じゼミで活動している4人組です。

今回はみんな大好きラーメン！
その中でも京都の激戦区一乗寺の「つるかめ」が北大路にも
OPENしたということで、紹介していきたいと思ひます！

写真左より 藤松華矢・守野あかり・松尾和朗・平山 廉

谷大 Tamidai



大谷大学から徒歩3分。 一乗寺の人気店がついにこの北大路にもOPEN !!

北大路通りに面している「つるかめ 北大路」が、2015年8月30日に
OPENしました！！OPENしてまだ1年ですが、いつも店内は多くのお客さん
でにぎわっています。

「1年やってきて大変なこともたくさんありましたが、お客様の「うまい！」
の一言がやりがいです」と店長の吉町公志さんは語っておられました。地下
鉄北大路駅や大谷大学からも近いので、サラリーマンや学生が多いそうです。
みなさんも1度訪れてみてはいかがでしょうか？



吉町店長



クセになるねー。
また行こう！



今回ご紹介したお店の情報はコチラ！



店名	つるかめ 北大路
住所	京都市北区小山下内河原町49-2
交通	地下鉄烏丸線「北大路」駅 3番出口より東へ徒歩3分
営業時間	11:30~16:00、17:30~23:00
定休日	不定休



大満足～！



2015年度 就職決定状況

2015年度文学部卒業生の就職率（就職者÷就職希望者）は、96・9％となり、前年の94・1％を上回る過去最も高い就職率となりました。

また、短期大学部卒業生の就職率は、100％となり、就職を希望した学生全員が就職することができました。（詳細は左ページ参照）

この結果は、経済状況の好転などによる企業の採用意欲の高まりもありますが、何よりも学生一人ひとりが最後まであきらめずに活動したことによるものと言えます。

2015年度の就職環境は、経団連の「採用選考に関する指針」により採用広報活動が卒業前年度の3月1日、採用選考が8月1日開始となりました。これにより、経団連加盟の大手企業と中堅・中小企業の採用活動の時期が逆転したことから内定者の辞退、企業の採用活動期間の長期化、内定者に対する就職活動終了の強要（オワハラ）など新たな問題が指摘され、企業、学生双方が戸惑う就職環境であったと言えます。

現在の就職環境

2016年度については、経団連の「指針」の改定により、採用選考の開始日が8月1日から6月1日に変更となりました。

採用広報活動の開始日は卒業前年度の3月1日から変更がなかったため、

広報開始から採用選考開始日までの期間が2カ月短縮されることとなりました。このことから、就職活動期間の短期化、集中化が予想されていました。早い時期から業界研究、企業研究を行っている志望業界、企業の絞り込みができて、エントリーシートの準備ができていた学生は3月1日以降の動き出しも早く、結果、複数社から内定を得ているケースがあります。

一方、出遅れや、準備が不十分な場合は、なかなか内定を得ることができず、内定を複数持つている学生と内定を得ていない学生の二極化が今年度の特徴と言えます。マラソンに例えるとトップ集団はゴールしているが、第2集団は団子状態（混戦）と今年の就職環境は表現されています。

とはいえ、まだまだ企業側の求人意欲は高く、求人情報も多く寄せられています。キャリアセンターでは個々の学生の希望に応じた相談・情報提供などの支援を継続して行います。

今後の就職支援

キャリアセンターでは、就職に限らず、個々の学生が納得のいく進路決定ができるよう、さまざまな支援を行っています。

特に、卒業前年度の就職希望の学生に対しては、前述した就職環境を踏まえ、個々の学生が就職活動を自身の問題として、主体的に行動することが重要と考え、自己理解、業界・企業研究、エントリー・採用試験、内定の就職活

動プロセスに則り各種支援を行っています。これまでに自己発見診断（自己理解）や筆記試験対策、履歴書作成や業界研究に関する就職ガイダンスを実施しています。

10月以降は、企業研究、職種研究、ビジネスマナー、面接などに関する支援企画を予定しています。特に、この時期に必要なのは、現在実施している履歴書（学生時代に力を注いだこと、私の特徴）作成のための個別面談です。履歴書は、採用選考の際の第一関門となる重要な提出書類ですので、早期に取り組む必要があります。また、就職直前ガイダンス、面接実践講座、業界・企業研究講座、就活強化合宿などの支援企画を実施します。

これらの支援企画については、掲示、メール、ダイレクトメールでお知らせします。

なお、教員、公務員をめざす学生、進学希望の学生は、別途支援しています。

2018年3月卒業、修了予定者対象

【今後の就職支援ガイダンス講座等】

- ・履歴書作成のための個別面談〔10/1月〕
- ・第2回筆記試験模試・解答解説講座〔10月〕
- ・第4回就職ガイダンス（職種研究）〔10月〕
- ・就職活動報告会〔11月〕
- ・第5回就職ガイダンス（企業研究）〔11月〕
- ・面接対策ガイダンス〔12月〕
- ・ビジネスマナー講座〔1月〕
- ・就活強化合宿〔2月〕
- ・就活直前ガイダンス〔2月〕
- ・学内合同企業説明会〔3月〕
- ・面接対策フォローガイダンス〔3月〕
- ・就職ガイダンス〔3月〕

文学部第1学年、第2学年の就職を希望するみなさんへ

就職活動はまだまだ先と考えられていると思いますが、日々の学生生活が卒業後の進路に大きく関わっていることを知っていますか。

社会人として求められる力として、「基礎学力」「コミュニケーション力」「主体性」「協調性」が挙げられます。これらの力は容易に身につくものではありません。日頃から学業だけでなく、クラブ活動、ボランティア、アルバイトなどの活動や、さまざまな人々と交流することにより養うことができるものです。また、社会を知るうえで、インターンシップも有効な方法です。

「大学生活は充実していますか？」と問われたときに「はい」と自信を持って答えられるように、さまざまなことに挑戦し幅広い経験を積みましょう。



2015(平成27)年度卒業生進路決定状況

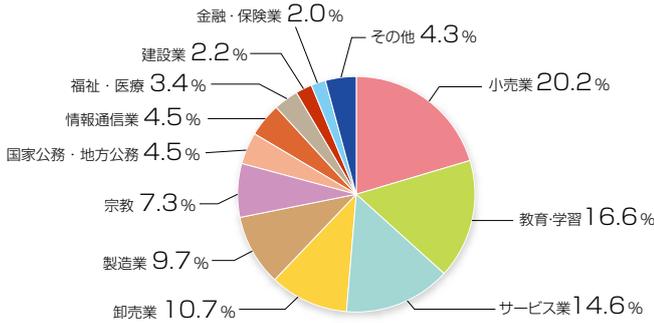
文学部

卒業生	就職希望		進学		聴講生 科目等 履修生	一時的な 仕事に 就いた者	左記以外
	就職者	就職活動 継続	大学院	大学短大 専修学校			
669	494	16	24	13	13	44	65

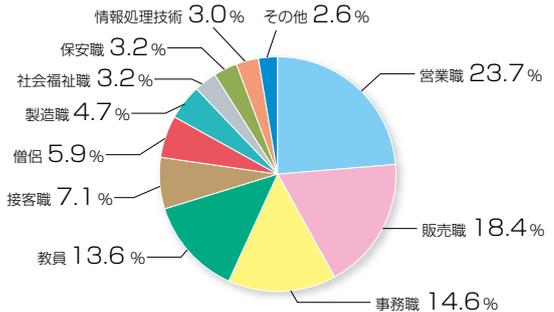
就職率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{就職希望者}}$	進路決定率 = $\frac{\text{進路決定者}}{\text{卒業生}}$
96.9%	79.4%

※進路決定者=就職者+進学者

●業種別進路決定状況



●職種別進路決定状況



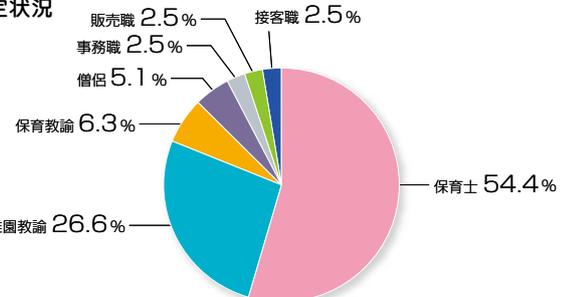
●2015年度就職先(抜粋)

建設業 大東建設 (株)	(株) ACN SGシステム (株) (株) 新学社 (株) スリーエース ソフトバンク (株) ワールドビジネスセンター (株)	ツルタ電機 (株) 外市 (株) 日本建設工業 (株) ピアス (株) (株) ファイブフォックス プリチンタイヤ北大阪販売 (株) 平安キャンパ事務機 (株) ホッコー (株) ユニシーフルーツ (株)	(株) スギ薬局 (株) ステップ (株) たなや (株) ツツミ トヨタカラー京都 (株) トヨタカラー滋賀 (株) (株) ドン・キホーテ (株) ナイスクラブ ネットヨタ京華 (株) (株) ハートフレンド (株) ハル はるやま商事 (株) (株) パロ・ホールディングス (株) ファーマシィ (株) 大垣書店 (株) 鎌田電器 京都生活協同組合 京都トヨタ自動車 (株) 京都日産自動車 (株) (株) キリン堂 (株) 近鉄百貨店 京滋ユア家電 (株) 平安百貨店 (株) (株) ゲオホールディングス (株) ケンブリッジファッション (株) コスモス薬品 (株) コメリ 滋賀ダイハツ販売 (株) 滋賀トヨタ自動車 (株) 滋賀トヨペット (株) 滋賀日産自動車 (株)	(株) 京都ライフグループ (株) ジェイ・エス・ピー (株) センチュリー21・ジャパン (株) 長栄	サービス業 AL SOK近畿 (株) AL SOK福岡 (株) (株) インテリジェンスオフィス (株) オージススポーツ (株) 京都吉兆 (株) シーエスシーサービス ジェイコム (株) (株) 進々堂 スターバックスローヒージャパン (株) タリーズコーヒージャパン (株) (株) 東横イン (株) トーカイ トランスコスモス (株) 日本年金機構 日本郵便 (株) (株) 白洋舎 福山市農業協同組合 (株) フルードストアパートナーズ (株) リバティ (株) ワールドストアパートナーズ (株) わかさ生活 不動産業 (株) アパマンショップホールディングス (株) 学生情報センター (株) 学生ハウジング	福祉・医療 (医) 財団法人武田病院健康センター (社) 京都社会福祉協議会 京都大原記念病院グループ (医) 社団法人、(社) 行風会 洛和会ヘルスケアシステム (社) 京都社会福祉協議会 (社) 真寿会 (社) 同和園 (社) 七野会 (社) 南山城学園 (特非) 育希 (特非) 自立生活センター・FREE (株) ファルコバイオシステムズ	岐阜県教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 千葉県教育委員会 三形県教育委員会 山形県教育委員会 宇治市教育委員会 嘉麻市教育委員会 亀岡市教育委員会 京都市教育委員会 甲賀市教育委員会 堺市教育委員会 城陽市教育委員会 長岡京市教育委員会 長浜市教育委員会 西宮市教育委員会 彦根市教育委員会 東近江市教育委員会 富士宮市教育委員会 舞臺市教育委員会 米原市教育委員会 守山市教育委員会 豊御市教育委員会 日野町教育委員会 (株) さなる 飯田市役所 (学芸員)	宗教 真宗大谷派宗務所 真宗大谷派札幌別院 真宗大谷派天満別院 真宗大谷派長崎教会 国家公務・地方公務 防衛省 (陸・海・空) 川西市役所 穴穂市役所 長浜市役所 東近江市役所 入善町役所 大府警察本部 京都府警察本部 警視庁 滋賀県警察本部 長野県警察本部
------------------------	--	--	--	---	--	---	--	---

短期大学部

卒業生	就職希望		進学		聴講生 科目等 履修生	一時的な 仕事に 就いた者	左記以外
	就職者	就職活動 継続	大学院 編入	短大 専修学校			
88	79	0	5	1	0	1	2

●職種別進路決定状況



就職率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{就職希望者}}$	進路決定率 = $\frac{\text{進路決定者}}{\text{卒業生}}$
100.0%	96.6%

※進路決定者=就職者+進学者

●2015年度就職先(抜粋)

保育所 朱い実保育園 あさひ保育園 永興富士見保育園 岡崎幼児園 桂坂保育園 上賀茂保育園 上京陵和園 共栄保育園 くわの実保育園 はこべ分園	幼稚園 下鴨夢保育園 白菊保育園 白い鳩保育園 すぎのこ保育園 第二あけほの保育園 チャイルドハウス はなぶさ保育園 終野保育園 ひまわり保育園	認定こども園 浦堂こども園 大原野こども園 聖パウロこども園 誡美幼稚園 米原市職員 (保育士・幼稚園教諭)	児童養護施設 積慶園 乳児院 平安徳義会 山科児童館	小売業 (株) サン・ダイコー (株) ストライプインターナショナル 不動産 アーキスプランニング (株)
---	--	--	--	---

※主な就職先一覧、進学先は、2017キャンパスライフp.85~88をご覧ください。

→ 詳しい情報は… 大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/03>

Our teacher 私たちの先生

学生一人ひとりと向き合い、卒論を通じて大切なことを教えてくれる冗談が好きな先生。

仏教学科教授

ロバート F. ローズ

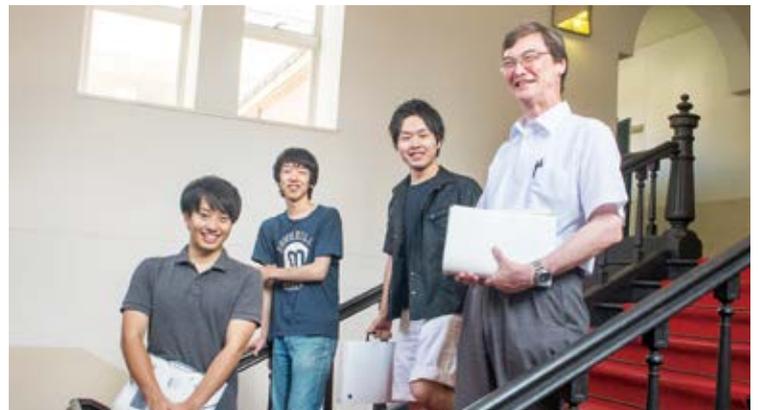


1953年神奈川県鎌倉市生まれ。1975年アメリカ・ハワイ大学卒業（アジア学専攻）。1977年大谷大学大学院文学研究科修士課程入学（仏教学専攻）。1979年大谷大学大学院文学研究科修士課程修了。同年大谷大学大学院文学研究科博士課程入学（仏教学専攻）。1982年大谷大学大学院文学研究科博士課程満期退学。1987年アメリカ・ハーバード大学博士課程入学（東アジア言語文化専攻）。1993年アメリカ・ハーバード大学博士号取得。1992年大谷大学専任講師。1998年大谷大学助教授。2004年大谷大学教授を経て現在に至る。



最終学年の一年間をとおして取り組む「卒業研究の成果として提出する論文」すなわち卒業論文。これは学生が大学に入り、そして、社会に出るためには、避けては通れない重要な課題です。

ローズ先生のゼミでは、4年生を対象に、卒論指導を中心としてゼミを行っています。卒論のテーマを決定し、関連の文献を集めて読み込み、そのうえで論文を書くことを授業の目標としています。学生は、毎回授業中に図書館に足を運び、そこで文献を調べ、成果をレジユメにまとめています。そのような作業の積み重ねを通じて、最終的に論文を完成させていきます。卒論テーマは法華経の思想から、ブツダの生涯や『日本霊異記』まで幅広く、先生も楽しみながら



紹介してくれた仏教学科・ローズゼミ（第4学年）左から岩田 修さん、松井 智嵩さん、三谷 真瑛さん

ら指導されています。

学生のために工夫を惜しまず、言葉で伝えるだけではなく、絵や図を使ってわかりやすい授業をしています。仏教学科では、もともと3・4年生のゼミを合同で行っていました。4年生が卒論に集中できるように2・3年生のゼミを合同にし、4年生のための卒論ゼミを開講しました。

そして、なによりもこれから社会に出たときのために、この「卒論」を通じて、計画性の大切さや、一生、自分の支えになるような何かを模索することを教えてくれるあたたかい先生です。

先生から学生たちへのメッセージ

わたしのゼミの学生たちは、みな4年生。そこで、まずはみなさんによい卒論を書いてもらいたいです。卒論は4年間の勉強の集大成。今まで学んできたことのなかで、もっと追求したい課題を徹底的に掘り下げて、納得のいく卒論を書いてもらいたいです。

そして来年の4月からは、みんな社会人。仕事に就き、結婚して家庭を築いてゆくことになるでしょう。そこで、みなさんには悔いのない人生を送ってほしいと思います。悔いのない人生を送るといことは、毎日を好き勝手に過ごすということではありません。一生をとおして自分が何をすべきかをしっかりと自覚して、それを実行していくことです。初代学長の清沢満之先生は、「自己とはなんぞや。これ人生の根本的問題なり」と、わたしたちに問いかけています。この4年間、仏教学科での学びをおして、みなさんはこの言葉に真剣に向き合ってきたと思います。卒業後も、この言葉を忘れず、充実した素晴らしい人生を歩んでもらいたいと思います。



教育に関する事業

① 学習支援室

学習支援室では、2014年度に引き続きリメディアル教育に主眼を置き、学習支援アドバイザーによる、基礎英語・日本語の読み書きを中心としたきめ細やかな個別指導を行いました。開室初年度(2014年度)の来談者数は、延べ人数にして合計1741名となったことを受け、2015年度はアドバイザーを1名増員し7名体制としました。来談者数の多い曜日・時間については、2・3名体制から、3・4名体制となるようにアドバイザーのシフトを組み、よりきめ細やかな個別指導を行いました。その成果もあって、2015年度の総来談者数は2046名となり、開室初年度の来談者数を大きく上回りました。

② 文藝塾

響流館3階に「文藝塾」を開設し、正課科目である「文藝塾講義」と課外学習である「文藝塾セミナー」を開講しました。「文藝塾講義」の受講者は18名で、授業では外部講師に小説家などの専門家を招いて講義と実践(文章の作成)を行いました。学生が作成した文章に対しては、講師による講評や添削指導が行われ、学生の文章能力・構成の幅を広げることができました。「文藝塾セミナー」は月1回開講し、ライターや編集者、詩人といった職業人を招いて、「本当に『読み書き』できていますか?」をテーマにそれぞれの職業において必要とされる読み書き能力について講演いただきました。

前期は5回(4・5・6・7・9月)、後期は3回(10・11・12月)開講しました。後期のセミナーは、各回ともワークショップを取り入れ、より実践的な内容で実施しました。

③ 教職支援センター

教職支援センターでは、「大谷教師力育成講座」として新規に実践算数セミナー(第3・4学年対象)を12月に4回、実践理科セミナー(第2・3・4学年対象)を初級と中級に分けて10・12月にそれぞれ4回開講しました。算数セミナーには第3学年を中心に12名、理科セミナーには初級に13名、中級に14名の参加がありました。

2016年度の教員採用試験名簿登録決定者は、京都府3名、京都市3名、滋賀県2名、大阪府3名、大阪豊能地区1名、茨城県1名、大分県1名(いずれも小学校)、幼稚園7名(私立)、中等科では大阪府1名(国語)となりました。教員免許更新講習については、5・12月に本学と地方12都市で必修科目2講習、選択科目40講習を開講しました。受講者数は、卒業生と関連学校の先生を含め、延べ1746名(実人数890名)

でした。

④ 街づくりに参加する学生の基地「コミュニティラボ」の開設

社会科学科新コース準備室に、地域連携プロジェクトに参加する学生たちの学修支援拠点として、「コミュニティラボ」響流館3階を開設しました。さらに、当該準備室を「地域連携室」とあらため、コミュニティラボにおける学生の活動を指導・援助し、地域連携事業を推進する組織に改組しました。地域連携室とコミュニティラボは、以下の地域連携事業を行いました。

〈賑園祭ごみゼロ大作戦2015への参加〉

7月に賑園祭のごみゼロ大作戦に参加し、リユース食器の返却やごみの分別回収拠点となる「エコステーション」を設置し、来場者への呼びかけや散乱ごみの清掃などを行いました。「社会学特殊演習5」受講者58名にボランティア学生、職員を加え113名の参加者を得ました。

〈中川区の暮らし再発見プロジェクト〉

京都市北区北部の中川区において、中川区社会福祉協議会と連携してプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、京都市北区からの助成金により実施するもので、真弓地区を中心とした地区の皆さんへの聞き取り活動と真弓分校での同窓会を企画しました。参加学生は、社会科学科生9名のほか、人文情報学科松川節子による活動記録協力がありました。プロジェクトには京都新聞、NHKなどの取材もありました。

⑤ 語学学習支援室(グローバルスクエア)

語学学習支援室では、留学相談や留学説明会、語学勉強会(6カ国語)の提供などにより、海外留学や外国語学習に興味を持つ学生に早い時期から留学への動機づけや細かなサポートを行っています。2015年度は個人で留学した学生は11名、勉強会への参加者は延べ85名でした。

また「外国語カフェ」のイベントを前期にフランス語で開催し、後期に英語、フランス語、ドイツ語、韓国・朝鮮語、中国語の5言語で「カフェウィーク」として開催しました。京都日本語学校に協力いただき、参加者は延べ125名でした。

学生支援に関する事業

① 障がい学生への支援

2015年度から障がい学生支援委員会および障がい学生担当部会の運用を開始し、在学する障がいのある学生の支援について意見交換を行いました。身体障がいのある学生に対する講義保障として実施しているテイク制度については、テイク

初心者の不安を解消するため、11月に学外講師を招き、ノートテイカー養成講座を開講しました。

② キャリア支援

2016年3月卒業・修了予定者の就職支援については、経団連の「採用選考に関する指針」による企業の採用選考活動の開始時期の変更に対応した支援を行いました。各種ガイダンス、就職支援企画の実施にあたっては、周知段階からテーマや他の企画との連関性を明示して実施しました。また、ガイダンス等の内容の理解を深めるために、個別面談を積極的に利用するよう促した結果、1年間で3466件の個別面談がありました。

また、第1学年を対象として、入学後のオリエンテーション時に「キャリア支援説明会」を開催し、大学生活を充実させると共に身につけてもらいたい能力などについて説明し、夢や目標、キャリアについて考える機会を提供しました。さらに、7・11月に、第1・2学年を対象にした、卒業生や在学生の先輩から、進路決定や就活の経験談を聞くガイダンスを開催しました。文学部第3学年にはゼミ別進路ガイダンスを、6・7月にかけて実施しました。

研究に関する事業

△ 眞宗総合研究所

本研究所の活動の中心は、大学主体で進める「特定研究」と「指定研究」です。2015年度は、特定研究として教上人研究、指定研究として清沢満之研究、国際仏教研究、ベトナム仏教研究、西藏文庫研究の5研究班が研究を遂行しました。特定研究の教上人研究では、2016年度の出版を見据えた研究調査を進めました。指定研究では、国際仏教研究で国際シンポジウムを2回開催し、研究成果を広く世界に発信しました。さらに、眞宗総合研究所直轄プロジェクトとして、2014年度同様、大谷大学史資料室、東本願寺海外布教資料室、デジタル・アーカイブ資料室の3資料室を置き、関係資料の収集・整理を進めました。

教員個々の研究を推進するための「一般研究」では、科学研究費助成事業に採択された研究(23件)、2016年度以降の科学研究費助成事業申請のための予備研究(4件)、そして個人研究の本研究(1件)、計28件を推進しました。加えて2016年4月に東京都文京区湯島に開設する「眞宗総合研究所東京分室」の準備を進め、室長1名及びPD研究員3名を採用しました。東京分室では、室長とPD研究員による「宗教と現代」をテーマとした共同研究およびPD研究員の個人研究を行い、研究者にしか通じない言葉で語

られがちな研究成果を一般の方々には理解される言葉で語ることで、研究者の育成をはかります。

管理運営・施設に関する事業

△ 認証評価の受審

大学・短期大学審にも(財)大学基準協会による認証評価を受審しました。短期大学部は10月19・20日、大学は10月21・22日に実地調査が行われ、2016年3月23日に大学・短大とも「適合」の評価を得て、結果をホームページに公開しました。

△ 大谷大学本部キャンパス総合整備

2015年度は、本格的な建物解体・建築工事となる2期工事期間に入りました。計画どおり至誠館、閑思館、3号館の解体工事を進め、7月3日には起工式を迎えて本格的な建築工事へと移行しました。2016年2月13日には鉄骨上棟を終え、外装工事で躯体工事に着手しています。

社会への開放

① 生涯学習講座

2015年度前期の本学生涯学習講座については、開放セミナー3講座、紫明生涯学習講座2講座、京都学講座1講座、博物館セミナー1講座を開講しました。後期は、開放セミナー4講座、紫明講座3講座を開講しました。学外団体へは、大学コンソーシアム京都の「京カレッジ」京都力養成コースへ1講座、京都市が行う「京あるきin東京2016」(2016年3月開催)へ1講座提供しました。2015年度からの新規事業として、近鉄文化サロンとの共催講座を1講座開講しました。

② 博物館

博物館では、毎年、1回の特別展と4回の企画展を実施しています。

春季企画展では、「大谷大学のあゆみ」として本学の歴史を4テーマ交代で展示しました。夏季企画展では、龍や鳳凰といったいわゆる想像上の霊獣をかたどった資料を展示しました。秋季企画展では、「大谷大学博物館の逸品」として、重要文化財2点の展示と実習生展を開催しました。冬季企画展では、「京都をまなび」シリーズとして、住田智見先生のご恵贈品および関係資料を他機関より借用して展示しました。

特別展では、「生涯60年 蓮如」のテーマの下、本願寺中興の祖といわれる蓮如の85年にわたる生涯の事績を、他機関借用資料を含め紹介しました。

2015年度決算

2015年度決算は、公認会計士および監事の監査を経て、2016年5月20日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学の会計は、公認会計士による監査を定期的に受けて処理されています。

また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年、決算承認後、文部科学大臣に届け出ています。

資金収支計算書

資金収支計算書は、教育研究等の諸活動に対応する資金の収入と支出の他、当該年度内において現実に収納し、また支払った資金の収入と支出について、その顛末を明らかにするものです。

資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国からの補助金の他、次年度の授業料等の前受金等が含まれます。

資金支出は、教職員の人件費や、学生の教育研究および学生生活に関する教育研究経費の他に、学生募集・広報等の管理経費と、施設や設備関係支出があります。

事業活動収支計算書

学校法人会計基準の改正により、2015年度より「消費収支計算書」

● 2015年度資金収支計算書 (2015年4月1日～2016年3月31日) (単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,568,748,500	人件費支出	2,629,617,058
手数料収入	78,784,478	教育研究経費支出	1,041,317,299
寄付金収入	434,401,086	管理経費支出	477,302,569
補助金収入	458,383,576	借入金等利息支出	11,665,500
国庫補助金収入	458,095,000	分担金等支出	14,320,000
地方公共団体補助金収入	288,576	借入金等返済支出	111,100,000
付随事業・収益事業収入	26,638,220	施設関係支出	1,135,057,180
受取利息・配当金収入	112,945,699	設備関係支出	122,035,196
雑収入	140,761,095	資産運用支出	1,612,991,280
借入金等収入	500,000,000	その他の支出	66,396,356
前受金収入	646,834,940		
その他の収入	293,175,460		
資金収入調整勘定	△ 757,199,634	資金支出調整勘定	△ 78,216,373
前年度繰越支払資金	5,867,721,720	翌年度繰越支払資金	4,227,609,075
収入の部合計	11,371,195,140	支出の部合計	11,371,195,140

● 2015年度事業活動収支計算書 (2015年4月1日～2016年3月31日) (単位 円)

	科目	金額
教育活動収支	事業活動収入の部	
	学生生徒等納付金	3,568,748,500
	手数料	78,784,478
	寄付金	149,227,133
	経常費等補助金	458,383,576
	付随事業収入	26,638,220
	雑収入	147,730,706
	教育活動収入計	4,429,512,613
	事業活動支出の部	
	人件費	2,620,917,747
教育研究経費	1,514,599,128	
管理経費	500,626,596	
徴収不能額等	3,577,750	
教育活動支出計	4,639,721,221	
	教育活動収支差額	△ 210,208,608
教育活動外収支	事業活動収入の部	
	受取利息・配当金	110,061,410
	教育活動外収入計	110,061,410
事業活動支出の部		
借入金等利息	11,665,500	
教育活動外支出計	11,665,500	
	教育活動外収支差額	98,395,910
	経常収支差額	△ 111,812,698
特別収支	事業活動収入の部	
	その他の特別収入	287,794,800
	特別収入計	287,794,800
	事業活動支出の部	
	分担金等	14,320,000
	資産処分差額	247,845,180
特別支出計	262,165,180	
	特別収支差額	25,629,620
	基本金組入前当年度収支差額	△ 86,183,078
	基本金組入額合計	△ 822,893,367
	当年度収支差額	△ 909,076,445
	前年度繰越収支差額	3,342,789,452
	翌年度繰越収支差額	2,433,713,007
(参考)	事業活動収入計	4,827,368,823
	事業活動支出計	4,913,551,901

貸借対照表

学校法人の目的である教育研究活動を達成するためには、施設や設備など膨大な運用財産を必要とします。貸借対照表は財産保有の状況を表し、

の名称を変更した「事業活動収支計算書」により、経常的な収支である教育活動収支、教育活動外収支と、臨時的な収支である特別収支をあらわすようになりました。事業活動収支計算書は、当該年度の活動に対応する、事業活動収入と、事業活動支出の内容および基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

2016年度予算

2016年度予算は、2016年3月24日開催の学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において当初予算が承認され、新学期を迎える学生数が確定した後の、7月6日に開催された理事会・評議員会において補正予算が承認されました。2016年度は、開設3年目を迎えた学習支援室のサポートを強化す

財産が適正に維持・管理されているかどうかを示すものです。なお、当学園全体の貸借対照表はホームページで公表しています。

る費用や、文藝塾をより充実させる費用等を計上しています。2015年度に開設した地域連携室コミュニティラボにおいては、地域での活動を通じて、地域社会の課題を解決することと、さまざまな力を身につけるプロジェクトを準備しています。また、キャリア支援では、個別面談を中心とした支援の充実を図るとともに、将来の進路を早い段階から意識させるための「自己発見診断」の予算等を計上しています。2016年度も本学の教育研究の一層の充実を図るために予算を執行してまいります。

保護者懇談会開催について

「保護者懇談会」とは、教育後援会役員ならびに大谷大学長ほか、学生支援部をはじめとする事務部門の職員が出席し、大学の現況についてご報告いたします。当日は成績表をお配りし個別相談にも応じます。各地区で開催する保護者懇談会は、個別相談終了後に懇親会も開催いたしております。

北陸地区保護者懇談会・大谷大学フェア 開催報告

7月17日(日)および18日(月・祝)、富山・金沢において、北陸地区在住の保護者を対象とした「北陸地区保護者懇談会」を開催いたしました。

懇談会では、学長ならびに学監・事務局長より大学の理念・教育目標・教育研究活動の現況について報告がなされ、学生支援部職員からは、履修状況の確認方法や、クラブ活動、奨学金制度などの学生生活のサポート体制について、さらに、近年の進路就職状況の傾向や支援体制についての説明を行い、保護者との協力が呼びかけられました。

その後の個別相談では、学生の履修状況や就職活動状況などのデータを基に、学生支援部職員が一人ひとりの相談に応じました。

懇談会に引き続き催された懇親会では、保護者相互の親睦を深めるなど、なごやかなひと時を過ごしていただくことができました。

金沢会場では「大谷大学フェア」と銘打ち、保護者懇談会とあわせて、北陸地区の同窓生や一般の皆さまに

もご出席いただき、公開講演会も実施され、約120名を超える方々にご出席いただきました。地区別保護者懇談会の今後の開催につきましては、左記のとおりです。今後開催されます該当地区の皆さまには、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

北陸地区保護者懇談会の様子



北陸地区保護者懇談会個別相談の様子



大谷大学フェア公開講演会の様子

教育後援会

大谷大学教育後援会は、全在学生の保証人が会員となって組織され、大谷大学の教育・研究の発展と、学生生活環境の整備・改善に支援を行っています。また、会員相互ならびに会員と大学との交流を深めることも目的に、各種の活動を行っています。なお、毎年、役員会・評議員会を開催してさまざまな事業を企画・推進しています。

九州地区保護者懇談会 開催日程

2016年 12月10日(土)	T K P 博多駅前シティセンター (福岡県福岡市)
--------------------	-------------------------------

わくわく朝定食(定期試験応援フェア)実施

昨年度に引き続き、7月の定期試験期間中、教育後援会からの補助により、朝定食が100円(ごはん・味噌汁おかわり自由)で提供されました。多くの学生に、朝ごはんをしっかりと食べて定期試験に臨んでもらえました。後期定期試験期間中(1月)も実施予定です。学生のみなさんは是非ご利用ください!

給付型奨学金を新設!

文学部第4学年で卒業論文または短期大学部第2学年で卒業研究を提出し、卒業見込みがあるにもかかわらず、生活保護や、課税対象外とならないほどの低所得で、最終学期の学費工面が難しい場合を対象に、給付型の奨学金を新設いたしました。

→ 詳しい情報は… 大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/kouyuu>

このたびは、教育振興資金局の募金活動にご協力いただき、ありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

今後引き続き、募金のお申し込みを受け付けておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお問い合わせ申し上げます。

なお、2016年2月1日から2016年6月30日までの間、ご寄付いただいた方々のご芳名は左記のとおりです。厚く御礼申し上げます。

税法上の優遇措置について

本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)ならびに税額控除にかかる証明(税額控除制度)を受けております。そのため、寄付者(個人)の選択により、どちらか一方の税法上の優遇措置を受けることができます。

大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟建築資金(募金)について

現在進行中のキャンパス総合整備・新教室棟建築にかかる募金につきましては、別途、募金趣意書を作成しております。お手元に募金趣意書が届きましたらご高覧いただけますようお願い申し上げます。また、既にこの建築資金のためのご寄付をいただいた方は厚く御礼申し上げます。建築資金としてご寄付いただいた方のお名前については、左記の「教育振興資金寄付者」一覧とは別に、別途名簿を作成する予定です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

教育振興資金寄付者 (敬称略)

【個人】

塩田 光代 (京都府)
関 義信 (京都府)
門脇 洋司 (鳥根県)
橋向 秀岳 (石川県)
匿名 14名

【法人・団体】

(有)石間企画事務所 代表取締役 石間 裕 (東京都)
NPO法人 尋源舎 (京都府)
椋山合資会社 代表社員 椋山 融子 (東京都)
匿名 3件

◆ 件数 24件

◆ 寄付金総額 1,650,000円

お問い合わせ先

教育振興資金事務局

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学総務部校友センター内 TEL: 075-411-8124 FAX: 075-411-8157 E-mail: kouyuu@sec.otani.ac.jp

共同作業としての授業

13年前に日本に移り住んでから、多くの日本人と出会い、生活の場を共にしてきた。そのなかで多様な考え方を持っている方々に出会い、安易に日本の文化について語ることに抵抗を感じるようになった。しかし同時に、さまざまな場面で、生まれ育ったアメリカの人々が持つ生活習慣と日本人が持つ生活習慣は大きく違うことを感じた。そこには、文化的背景があると認めざるを得ない。

大谷大学で教壇に初めて立つてから、かれこれ5年ほど経つが、アメリカで育った私は、学生のある行動に戸惑いを感じる。というのは、講義中に大半の学生は、恥ずかしいからか、私と目を合わせようとしない。かえって目を合わせることを避けているようにも思える。そして、目を合わせようとしている私に、学生が戸惑いを感じていることに気づいた。

最初の頃、コミュニケーションが成り立っていないと思い、深く落ち込んだが、感想文や試験の回答を見ると、確かに講義で言っていることが学生に伝わっている。双方の戸惑いは、学生に対する私の期待と、私に対する学

生の期待のズレからどうも生まれていくのだ。授業の際に期待することの差はきつと互いの文化的背景から来るのだろう。

違和感を覚えながら、経験を重ねていくにつれ、アメリカ人として望んでいる関係性を学生に求めないようになり、違う形で学生との関係が成り立っていると感じるようになってきた。それは、私個人が個々の学生と関係を結んで、伝授する人と伝聞する人という形ではなくて、共に授業の題材について考える関係ができていくように思う。言わば、私を中心とした授業ではなく、黒板を中心とした授業に、私が学生と共に参加しているという感覚がある。そして最近、日本の授業は一種の共同作業の場と考え、自分を傍らに置いて、学ぶべき題材を学生に提示しようとしている。



真宗学科
講師
マイケル J.コンウェイ
専門分野/真宗学

時代を照らす仏教のことば

己れを忘れて
他を利するは、
慈悲の極みなり

最澄『山家学生式』
（『日本思想大系』第4巻p.194）

編集後記

今回の巻頭対談ページ「私たちの課題」では、コミュニケーションについて語っていただきました。「地域の人と話し合い、今何が必要なのか考え行動する、とてもやりがいのある活動です」とイキイキとした表情で学生は語ってくれました。在学生の皆さんにも、大学内に留まらず、学外にも関心に向けて、自分の勉学の場を広げてほしいと思います。
(編集担当)